

公益社団法人私立大学情報教育協会
2019 年度第 2 回大学職員情報化研究講習会運営委員会 議事内容

- I. 日 時：令和元年 11 月 5 日(火) 14:00 から 16:00
II. 場 所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）6F 伊吹東
III. 参加者：木村委員長、遠藤副委員長、中本委員、深谷委員、鈴木委員、小瀬川委員、毛利委員、吉田委員、中原委員、畑田委員、西脇委員、牛島委員、稲積委員
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

1. 基礎講習コースの振り返り

今年度は、7 月 10 日～12 日に浜名湖で開催し、77 名の参加があり、開催報告案に基づき実施結果を確認した。

- ・ 参加部門は、学事・教務部門と情報センター部門で全体の半数であったが、様々な部門からの広い参加があった。また、年数は、20 代が 8 割強で在職 3 年以下が 9 割弱であった。
- ・ 今回は、テーマとして、学修成果の可視化、教学マネジメント、業務改革の 3 点を設定して進めた。テーマ設定の影響かは不明だが、参加者の中には、何かをしたいとのイメージを明確に持って参加している姿が確認された。
- ・ ジャーナル向け開催報告には、アンケートでの参加者の声を追加することにした。

2. ICT 活用コース開催要項の検討

今年度は、12 月 16 日に同志社大学を会場に情報提供型の講習会として開催することが確認され、開催要項の検討を進め、確定させた。

- ・ タイトルを学修成果の可視化と業務改革として、以下の情報提供を行う検討をした。
- ・ 教育の質の保証と情報公表として、文部科学省指針の背景を含めて説明を行い、その方向性を大学として主体的に確認すること、また、大学アンケートでは真の姿が見えにくいことから、直接学生から声をあげる学生調査で大学教育の是非が社会から見える仕組みを進めることも確認する。
- ・ 学修成果可視化と IR への活用として、行動調査、ベンチマーク、ポートフォリオによる可視化から IR への活用について学生中心の位置づけで大学の取組みを紹介する。
- ・ 学修成果の可視化を効果的に進めるための基礎知識として、可視化について各大学の実施状況を含めて解説的に基礎知識となるように紹介することで、認識を深めてもらうよう、外部の方からの意見ではどのように捉えられているのか、情報誌の編集者から紹介する。
- ・ ロボット（RPA）の活用による業務の質的向上に向けた取組みとして、業務のやり方や組織の在り方等を見直し、限られた人的資源を有効に活用し、業務の効率化、大学に求められる機能の実現を目指し業務構造改革を行い、教育研究及び学生支援等の向上を図る取組みを紹介する。
- ・ ノンプログラミングでの学内申請システム化による業務効率化・紙廃止の取組みとして、稟議申請、施設予約・設備管理、発注・購買業務などを対象にシステム化、ワークフローを使って業務を進められるようにし、職員が中心となりノンプログラミングで業務システムを構築して、紙削減を図ると共に、学生・教職員の利便性と付加価値の高い環境整備を目指す取組みを紹介する。

VI. 今後のスケジュール

- ・ 12 月 16 日、同志社大学で大学職員情報化研究講習会を開催することになっている。なお、開催要項は講師最終確認の上、各大学に発信をした。また、当日の担当を後日メールで分担当した。